

も っ こと 知ろう ESD

岡山、名古屋両市で11月、ESD（持続可能な開発のための教育）に関する世界会議が開かれる。ESDに力を入れる岡山市は文部科学省などと今年9、12月、関連する国際会議を開催。ESDとは何かを、学校や公民館の活動を通して紹介する。

体操服に胴長をはいた生徒らが、校舎裏の人工池に入っていく。足元を泳ぐ体長3〜5センチのスイゲンゼニタナゴに注意しながら、水中に熊手を突っ込み、泥のついた藻を引き上げるなどした。

県立矢掛高校（矢掛町矢掛）では、約10年前からスイゲンゼニタナゴの繁殖に取り組んでいる。かつては近くの小田川を泳いでいたが、乱獲などで激減。旧矢掛商業高校が保護に乗り出し、04年に統合した矢掛高が活動を引き継いだ。

スイゲンゼニタナゴは02年、種の保存法で希少野生動植物種に指定された。2年木山晴希君（17）は「多様な生物の一つでも欠けると、他の生物に影響すること学んだ。人間だって例外じゃない」。

矢掛商の特色を生かして04年度、ESDの専門家の意見を参考に「環境」という授業を導入。

水質保全などの知識を学び「わしらの川じゃけえ、わしらで守ろうや」と地域に呼びかけ、小田川を清掃し、小学生らを招いて動植物を教える教室を開催するようにになった。

さらに、宿場町の面影を伝える大名行列などの伝統行事に参加し、商店街で特産品の開発などに協力。「環境を保護するには、その地域社会をどの

ように守るべきか考える必要がある」。教科主任の高木潤教諭（42）は説明する。同校はESDの活動拠点となるユネスコスクール（国連教育・科学・文化機関）への加盟を申請し、08年、県内で初めて認定された。

2年竹井まどかさん（16）は中学3年の時、同高の生徒から国際フォーラムに出席したことな

ユネスコスクール 国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）憲章の理念を取り入れ、活動する学校をESDの推進拠点として認定する制度。今年4月の時点で世界180か国の9566校以上が加盟し、国内では705校（うち県内は小中学・高校42校）が承認されている。

どを聞き、ESDに興味を持った。2年間の活動で、「自分たちが快適な生活を送るだけでなく、次の世代のために守っていく」と思うようになった」と

次世代のため 環境守る

ESDって何？

約2100団体が参加する岡山ESDプロジェクトが続けられている。

Q 世界会議の日程は
A 11月4〜8日に岡山市で「ステークホルダー会議」を開催。国内外の高校生やESDの実践者が集まって意見交換する。その内容は、世界195か国の閣僚ら約1000人が名古屋で一室に会し、10、12日に開く全体会合に反映される。これに先立ち、岡山市などは今年9、12日、公民館活動を中心とした「ESD推進のための公民館—CLC国際会議」を開く。

A Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されている。温暖化やエネルギー不足といった地球規模の課題が山積する中、環境保全と開発が調和した社会作りと、そのための教育を広げ、課題を解決できる人材の育成を目指している。

Q 日本との関係は
A 02年に南アフリカで開かれた第2回地球サミットで、日本政府と民間団体が提案。それをきっかけに、国連総会で05、14年を「国連ESDの10年」とすることが採択・宣言された。

Q 県内の取り組みは
A そのサミットで岡山市が環境に根ざした都市計画をPR。世界で初めてESDの地域拠点（RCE）に選ばれ、学校や公民館、NPO、企業な

課題解決の人材育成目指す

Q 会議の意義は
A 岡山ESD推進協議会長の青山勲・岡山大学名誉教授（72）は「会議では、10年間で人々の意識はどの程度変化し、世界はどう変わったのかを真摯に評価し、今後につなげていく必要がある」と語る。



人工池を清掃しながら、生息する生物を確認する竹井さん（左）（矢掛町の県立矢掛高校で）